

大井九条の会 平和の集い
平和への思いを語る会

皆さんが抱いている
平和への思いを
語り合いませんか？

朗読劇

調査発表

日時：2019年 **8月31日** (土)

| 13:50 ~ | 16:00

場所：大井町生涯学習センター 2階 (大井町役場となり)

参加費：500円 (高校生以下無料)

内容

- I 朗読劇 <旧満州で迎えた終戦 そして引き揚げ>
1995年 西山みいさんの手記より
- II 調査発表「戦時下における大井町の状況」
- III 参加の皆さんから発言：平和への思いを語る

※西山みいさんは大井小学校に長く教師として勤務されていました

問い合わせ Tel：0465-83-2358 二上 (大井九条の会 事務局)

多くの犠牲のもとに生まれた日本国憲法を次世代に引き継ごう

先の大戦の戦死兵士の6割が戦闘死でなく餓死

政府発表（1997年）によるとアジア太平洋戦争の旧日本軍の戦死者は約230万人です。しかし、そのうちの6割に当たる約140万人もの兵士が戦闘行為ではなく餓死でした。（藤原彰氏が実証的に検証した著作「餓死した英霊たち」） ソロモン諸島（オーストラリアの北東）のガダルカナル島は、2万人の兵士のうち1万5千人の餓死者を出し「餓島」と呼ばれているほどです。

精神論で押し進められた無謀な戦略、降伏を禁止する軍規

なぜ他国に類をみない高い割合で餓死者を出したのか。それは冷静で客観的な事実に基づく作戦ではなく、根拠のない精神論や上層部の情実によって無謀な作戦が決定されたことと、投降・降伏・逃亡を禁じ、現地での死刑まで実施してきた軍規のためです。

1943年5月のアッツ島（アリューシャン列島・米領土）の戦闘では、大本営の玉砕命令のもと、降伏せず自殺行為とも言える突撃を行い、アメリカの自動小銃に全員倒れました。大本営はこの戦闘を、戦陣訓を国民に浸透させる良い機会として「一兵の増援も要求せず、部隊が『生きて虜囚の辱めを受けず』の戦陣訓のもと、自ら玉砕を決意した」と嘘を報じ、美談として、その後の各戦線での同様な全滅を美化することに利用しました。

一方、1944年3月から始まったインパール作戦（ビルマ《現ミャンマー》からインドのインパールを攻撃して、イギリスから中国への補給路を断つとの作戦）では、当初から物資補給の点で問題が多いとして軍上層部での反対も多かったのですが、大和魂や神国日本などの精神論や上官と部下との確執などが冷静な論理的判断より優先され決行されることになりました。3週間分の物資で送りだされた各部隊はたちまち苦戦に陥り、同年7月に中止命令が出ましたが、戦線に取り残された兵士は見捨てられ、多くが餓死することになりました。この作戦で兵士8万6千人の内、帰還できたのは1万2千人でした。（NHKテレビ参考）

それはなぜか？



不戦の誓い日本国憲法

戦後、日本はアジア諸国、欧米諸国に対して、当時の軍の最高責任者であった天皇を国の象徴とすると同時に、2度と戦争をしないと宣言しました。そのために武器をもたず、軍隊ももたないと約束し、さらに、国民主権を徹底し、個人の尊厳を尊重する憲法を作り上げました。

しかし、近年に違憲の疑いの強い安保関連法が強引に制定され、自衛隊が米軍と一体となって、日米共同作戦演習をするなどアメリカが起こす戦争に巻き込まれる危険が増しています。当会では九条改憲を許さない運動をさらに強めていきます。

大井九条の会

連絡先 0465-83-2358
事務局 二上